



若鳩だより

愛と創造

令和4年10月3日 第3号 発行:東京都立東村山高等学校 東京都東村山市恩多町4-26-1

第54回 若鳩祭開催 9月16・17日(金・土)



笑顔無限大で開催した文化の祭典

生徒の皆さんや先生たちの協力があって、若鳩祭が無事に閉幕となりました。久しぶりの全クラス参加の文化祭でした。今年は、新しく綺麗な校舎で、体育館・教室等を使用した催し物ができるということに、わくわくしていました。明るい校舎で、新しい若鳩祭ができたことを、とても嬉しく思います。また、文化祭の準備から本番、片付けまでの貴重な時間が、生徒の皆さんの「心の成長」や「未来で語り合う思い出」、「優しい笑顔」に繋がられたならいいなあと思います……。もっと、何かできていたら、もっと、何かしていたらと、「もしも」を感じることもありました。そんなポジティブな思いが、来年度へのバトンとなればと思います。(担当 生活指導部 倉橋)

今年度の若鳩祭は新校舎で行われる2回目の文化祭です。一般公開や調理が出来ないなどの制約はありましたが、展示会場、イベント会場、金券の販売など、前回に比べて大幅にボリュームアップする事が出来ました。今回のテーマは「笑顔無限大」です。準備から本番まで貴重な経験を重ね、観る人も参加する人も、いたるところで笑顔の溢れる祭典となりました。

★ ステージ ★



今回の若鳩祭では、1学年がクラス毎に体育館でステージ発表を行いました。これは例年にはなかった初めての企画です。劇、ダンス、チア、パフォーマンスなど、決められた時間枠でそれぞれの内容を模索し、練習を重ねました。衣装や舞台装置にも趣向を凝らし、映像とのコラボレーションや着ぐるみのダンスも登場。クラスの仲間や友達が舞台上になると、会場には温かい拍手と笑顔が溢れました。

☆ 展示 ☆



展示部門には2、3年生、文化部、委員会などが参加。普通教室、特別教室などで展示発表を行いました。各教室ではダンボールなどを使って、様々な工夫で装飾がなされました。文化祭といえば人気の高いのはお化け屋敷。入り口に入場者が並び、4つの団体が競い合う事になりました。2階学び合いプラザでは、恒例の華道部の共同制作、書道科の作品展示、図書館での豆本ワークショップ、茶道部の御点前で賑わいました。

♠ パフォーマンス ♠



パフォーマンス部門には6団体が参加。ダンス、ファッションショー、ライブ、演劇などで若鳩祭を盛り上げました。会場は感染防止の為、歓声は禁止されていましたが、観客はペンライトなどを振って声援を送りました。吹奏楽部はメドレーを中心に楽曲を編成。演劇同好会はコーラス部とのコラボレーションでミュージカルを上演。ライトミュージック部は視聴覚室を演奏会場とし、次々とバンドが登場しました。

♣ のぼり・装飾 ♣



校舎二階の手すりには各団体の幟（のぼり）がズラリ。これは夏休みの期間に制作がなされました。初めは刷毛を使って生地に彩色をすることが難しく感じられたようですが、それぞれの力作が完成。飾り付けた景観は秋空に良く映えて、祭典に活気を与えてくれました。校門には美術部が制作した立体造形の看板が来場者をお出迎え。改築中のグラウンドの完成を心待ちにするように設置されていました。

♥ 販売 ♥



今回は調理を伴う販売はありませんでしたが、菓子類やドリンクなどの販売は行われました。参加団体は、それぞれのコンセプトに合わせた店内のデザインに力を入れました。駄菓子屋さんのイメージでレトロな感覚の内装も多く、昭和の商店街のように、ほのぼのとした気分させてくれました。人気の商品は早々に売り切れしてしまうという一幕もあり、駆け付けた時には完売の看板も……。また、フォトスポットのコーナーも用意されていて、仮装をした仲間と並んで撮影を楽しみました。

◆ 受賞団体 ◆

- 🏆 のぼり部門賞 1年4組 ドリーミングアップ！
- 🏆 ステージ部門賞 1年6組 ヒーローショー
- 🏆 販売部門賞 3年2組 ドラ助（どら焼き・休憩所）
- 🏆 パフォーマンス部門賞 3年4組 Smile in FASHIONSHOW
- 🏆 展示部門賞 3年3組 CURSE～最後の七不思議～（お化け屋敷）
- 🏆 最優秀若鳩賞 ダンス部 DANCE LIVE



審査では、「笑顔無限大」というテーマに即しているか、自分たちだけでなく他のクラスや団体の人も楽しませることができたか、ルールや時間を守れているか、などが基準になっていました。今回は、どの団体も3年ぶりの文化祭とは思えないほど工夫していたので、得票数も意見も割れてしまい、賞を決定するのに苦労しました。また、エントリーをしてはいませんでしたが、お昼の放送をしてくれた放送委員にも賞をあげたいとの声もありました。みなさん、本当に頑張っていたと思います。賞を獲得したか否かに関わらず、この経験を来年度に生かし、よりよい若鳩祭を作ってくれることを期待しています。